

突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？

本誌の編集担当者。7月末に自分が所属しておけの演奏会が終わったばかりなのですが、うっかり別団体のオケの助っ人も引き受けてしまい、8月も9月も10月も演奏会が…そもそも助っ人を引き受けられる腕前でないのになぜOKしたかというと、ひとえに練習後の飲み会と「助っ人演奏者は本番後の打上がタダになる」というニンジンにつられたせいでございます。このぶんだと、10月の本番を迎えるころには演奏会用のスカートが入らなくなるぞ…(怖)。

今回は、ヤマハファインテックさんにインタビュー。ヤマハって楽器やバイクとかのメーカーだよね!? と思いきや、長年培ってきた優れた技術でさまざまな加工業界を支えているのです。そのノウハウの基本、教えてください！

第68回目 ヤマハファインテック 株式会社



〒435-8568 静岡県浜松市南区青屋町283
TEL(053)467-3600(代表) FAX(053)467-3613
<http://www.yamaha.co.jp/fintech/>

お話を伺った方



FA事業部
事業部長
椿田 英昭 氏



FA事業部
FA技術製造部
FA技術1課
チーフエンジニア
荒木 弥 氏



FA営業部
セールスリーダー
森下 久 氏



FA営業部
香田 光彦 氏

□■今回のお題：仕上げロボット■□

会社の沿革は？

ハル：よろしくお願ひします！ 大変失礼ながら、ヤマハさんにはピアノやヴァイオリンで幼少時代からお世話になっておきながら、加工業界でも実績がおりだとは知りませんでした…(汗)。ヤマハ(株)が100%出資されているヤマハグループと伺ったのですが、まずはヤマハファインテックさんの沿革から教えていただけますか？

椿田：わが社は1987年、ヤマハ(株)から金型部門を分離して設立されたのがはじまりです。その後、1991年に専門機部門、2000年にFA事業、そして2007年にCP(カーパーツ)事業をそれぞれヤマハ(株)からこちらに移管しました。

ハル：ヤマハ製のカーパーツがあるなんて意外！

荒木：わが社の製品は楽器部門と違ってエンドユーザーに向けたものではなく、楽器作りで培われた技術をB to Bで事業展開していますからね。カーパーツは、高級車用の木本内装パネルなどを製造販売しています。

ハル：言われてみれば、高級車には美しい艶色の木製パーツがありますね。

楽器作りの技術との間にそんな関係があったなんて、思いもしなかったなあ。皆さんご所属なさっているFA事業部では、どのようなものを作られているんですか？

森下：こちらでは楽器製造用の設備技術を活かし、プレシジョンマシン(PM)やリーコテスター(LT)、仕上げロボット、ヤマハグループ向けの専用機(楽器部門加工機や組立機、検査機など)を開発販売しています。

ハル：なるほど、楽器そのものを作る技術だけでなく、楽器を作る機械の技術も応用されているんですね。

FA事業部が手掛けているもの

ハル：今伺った事業内容を、もう少し詳しく教えていただけますか？

香田：PMではフレキシブル基板、フィルムを対象としたパンチング機、電気検査機などを手掛けています。回路基板の電気検査では、微細な回路パターンに±5μmで高精度プローピングが可能です。ワイヤータイプの検査治具では、ワイヤー径Φ30μm、ピッチ55μmまで可能となっています。

ハル：うーん、楽器作りの技術が、

そんな分野に応用できるものなのかあ…。

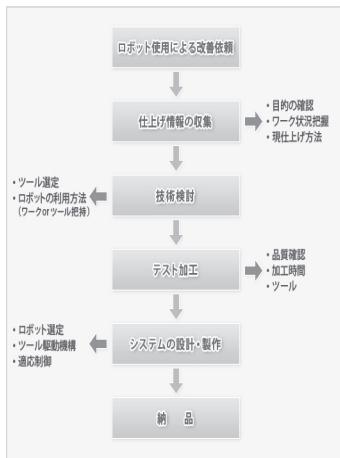
森下：リーコテスターではガソリンタンク、アルミホイールやドラム缶、熱交換機器の機密部分を対象とした漏れ検査装置などを手掛けています。2010年の売上割合では、PMが約50%、LTが約35%ですので、この2つが主力となっています。

ハル：仕上げロボットシステムとは？

椿田：業務提携している会社のロボットを使い、対象ワークの仕上げをするシステムをわが社で構築しています。PMやリーコテスター事業と比べるとまだ売上は少ないのですが、非常に重要な技術と考えています。今後発展させていきたい分野ですね。プリント基板などの販売先は外国がほとんどですが、仕上げロボットはユーザーへきめ細かく対応できるよう、現在のところでは多くが国内ユーザーなんですよ。

仕上げロボットの名付け親！

ハル：ところで「仕上げロボット」というネーミングは、御社がつけたものだそうですね！



椿田: そうですね。1984年にわが社がロボットを外販した際、「他社にはないものにしよう」と試行錯誤いたしました。ネーミングについても、当時「仕上げロボット」という名称はなかったので、ヤマハで命名したのです。

ハル: そうだったのかあ。御社の仕上げロボットの特徴はどのような点ですか?

万：
万：

荒木:いろいろありますが、要素から手掛けていることも強みですね。ロボットがいくらよっても工具が悪ければ台無しになってしまいますから、最適なものを選びぬくことが必要になりますまた、わが社は倣い加工にも優れていますよ。

ハル：倣い加工…？

香田: 素材の凹凸に倣って加工することです。複雑な形状も、精度よく加工できますよ。

ハル:確かにホルンとかオーボエとか、楽器ってものすごく複雑なパーツででていますもんね。楽器作りのノウハウが、こんなところにも活かされているんですね!

荒木:ロボットがワークをつかむ、いわゆる「手」の部分を作るのも得意ですよ。ユーザの方々が見学にこられると、

「産業用ロボットがこんなになめらかに動くのか!」と皆さん驚かれています。 ハル:今後の発展が楽しみな事業ですね。 森下:バリ取りのロボットはよくあります

新規のアカウント登録が完了すると、アカウント登録用のメールが届く。

ですが、磨きのノウハウをロボット化するのは難しいものなのです。「人間が五感で判断する感覚」をロボットにティーチングする点も、わが社の特徴といえますね。

元ストリームにはある在宅ノート

ハル: 御社にはテストルームもあるそうですね。外部から持ち込まれたものも磨いてくれると伺ったのですが、やはり加工機などの工業分野が多いんですね?

椿田: いえ、さまざまな分野から依頼がありますよ。墓石が来たり、消波ブロックの金型が来たり。「新幹線削ってくれ」という依頼もありましたね。

荒木: 古い塗装をはがしたり、パテで埋めたところを削ってほしいと依頼されたのです。わが社は外観的な磨きを得意としていますので、そういうた要請を多く寄せられます。

望も多く寄せられます。
ハル: ヤマハのものづくりを支えてきた「磨きの技術」が、さまざまな分野に応用されているんですね。

椿田:わが社の、楽器や自動車部品を磨いてきた仕上げロボットシステムに

磨いてきた仕上リロットシステムには実はすごいノウハウが詰まっているのです。しかし、まだまだ応用しきれていない感があります。今後はこれらの技術を汎用機に組み込んで、広く展開していくをめざします。

「開いていきたいですね。」

今後の展望は?

ハル:今後の展開が期待される仕上げロボットを含め、今後の展望をお聞かせいただけますか?

香田：製造業は元気のない時代が続いているので、ロボットをはじめとしたわが社の技術で貢献していくたいと考えています。

森下:日本の空洞化が叫ばれていますが、日本のものづくりの技術にはまだまだ伸びしろがあると思うのです。このような時代だからこそ、国内の活性化に尽力していきたいですね

荒木:世の中に貢献し、人に喜ばれるモノをつくっていきたいと思いま
す。それらを使った若い人たちが興
味をもって、製造業に入ってきてく
れたら、こんなにうれしいことはあ
りません。

椿田: 先ほども申し上げたように、仕上げロボット事業はまだわが社の中ではボリュームが小さいですが、非常に重要な技術です。「技能の伝承」が必要となるので、今後はもっと研究を深めていきたい分野ですね。今まで国内で展開してきましたが、今後、海外の人事費が高くなれば、海外での需要も増えることと思います。それらも視野に入れて展開していきたいと思います。

取材のあとのお楽しみ♪

浜松の美味といえば鰻と餃子♪ 夏でもあることだし、ここはひとつドーンと鰻でまいりましょう！ ということで、浜松の某有名店へ。まずは白焼きや肝焼きで冷酒をくいっと…うへ、至福。〆はお櫃うなぎ茶漬けでございます。お櫃に入ったふっくらごはんの上には食べやすく小さめに切ってある鰻のかば焼きがぎっしり。まずはお茶碗によそってそのまま堪能。次に薫味とわさびを添えて、あつあつのだし汁を注いでお茶漬けにいたします。名古屋のひつまぶしと同じ食べ方だけど、こちらはひつまぶしよりふっくらした上品な口当たり。ああっ、また食べたい！

